

- 問1 九州地方に位置する鹿児島市の気候の特徴を、滋賀県彦根市と比較して説明したものとして、最も適切な記述を選びなさい。 (2017年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 夏と冬の気温の差が小さく、年間の降水量は2000mmを超えており、特に梅雨の時期の降水量が多い。 | 2. 最暖月と最寒月の気温差が非常に大きく、1年を通して降水量は彦根市よりも少なく推移する。 | 3. 夏と冬の気温の差が大きく、冬は北西の季節風の影響により、年間を通して降水量が平均的に多い。 | 4. 年間の降水量が1000mm程度と少なく、夏に雨が集中するため、冬は乾燥した気候が続く。 |
|---|--|--|--|
- 問2 日本の国土を大きく分ける七大方区分において、宮崎県は福岡県や鹿児島県などとともに、ある一つの広域的なまとまりの中に分類されています。この宮崎県が属する地方区分名を答えなさい。 (2025年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|------------|---------|
| 1. 中部地方 | 2. 近畿地方 | 3. 中国・四国地方 | 4. 九州地方 |
|---------|---------|------------|---------|
- 問3 沖縄県の県庁所在地である那覇市の歴史的・地理的背景に関する説明として、最も適切なものを選択肢から選びなさい。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 九州地方の各県との物理的な距離が最も近いため、古くから九州の行政管区の一部として発展した。 | 2. 沖縄本島のちょうど中央部に位置し、米軍基地を返還した跡地に計画的に作られた行政都市である。 | 3. 明治時代の廃藩置県において、鹿児島県の出先機関が置かれたことをきっかけに県庁所在地となった。 | 4. かつての琉球王国の政治拠点であった首里に近く、古くから港町として発展した歴史を持つ。 |
|--|--|---|---|
- 問4 宮崎県では、ピーマンやきゅうりなどの野菜において「促成栽培」という手法がとられています。この栽培方法の説明と、その目的の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 台風の被害を避けるため、収穫時期を秋から夏に前倒しすることで、輸送コストを削減する。 | 2. 冬の積雪を防ぐために大規模な温室を作り、一年中同じ価格で安定的に野菜を供給する。 | 3. 温暖な気候を活かして成長を早め、他の地域の出荷が少ない時期に販売して高い利益を得る。 | 4. 夏の涼しい気候を活かして成長を遅らせ、他の地域の出荷が終わった時期に販売して価格を安定させる。 |
|---|---|---|--|
- 問5 日本におけるブリ類の「海面漁獲量（天然もの）」と「海面養殖業（養殖もの）」の統計的な特徴を比較した説明として、正しいものを選びなさい。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 海面漁獲量では長崎県が全国1位であるが、海面養殖業では鹿児島県が1位となっており、九州地方内でも漁法によって主要な県が分かれている。 | 2. 海面養殖業の上位5県には愛媛県や高知県といった四国地方の県も含まれるが、九州地方の3県の合計収穫量には及ばない。 | 3. 海面漁獲量の上位5道県はすべて日本海側に位置しており、対馬海流を利用した漁行が盛んなため、養殖業よりも安定した生産量を維持している。 | 4. 海面養殖業の収穫量は全国で約13万7千トンにのぼり、約10万トンの海面漁獲量を上回っている。養殖の拠点は、鹿児島県や大分県などの九州地方に集中している。 |
|---|---|---|---|
- 問6 鹿児島県などの南九州に広がるシラス台地では、一般的な地域の井戸が約6メートルから10メートル程度の深さであるのに対し、約64メートルもの深さがある「深井戸」が掘られてきました。このように極端に深い井戸が必要とされた理由として最も適切な説明はどれですか。 (2024年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 台風による塩害を防ぐため、海水の混入しない深層の真水を確保する必要があるため | 2. 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため | 3. 花こう岩の地層が地表近くまで迫っており、岩盤の隙間にあるわずかな水を確保するため | 4. 関東ローム層と呼ばれる粘土質の層が厚く、地表付近の水の浸透を妨げているため |
|---|---|---|--|
- 問7 統計資料において沖縄県の観光客数や観光収入が長期的に増加している背景には、地域の産業構造の変化や社会基盤の整備が深く関わっています。その背景を説明したものとして、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. サトウキビやパイナップルなどの第1次産業の生産を縮小し、すべての労働力を観光産業に集約させる政策が1970年代から徹底されたこと。 | 2. 製造業による輸出額が観光収入を大きく上回ったことで、その利益が観光地の景観維持に再投資される循環が生まれたこと。 | 3. 那覇空港の拡張や大型リゾートホテルの建設といったインフラ整備が進み、国内外からのアクセスと受け入れ体制が向上したこと。 | 4. 県内全域に鉄道網が細かく張り巡らされ、レンタカーやバスを利用せずに観光地を移動できる交通環境が整ったこと。 |
|--|---|--|--|
- 問8 日本の各県の農業産出額を比較した際、沖縄県には他県と異なる際立った特徴が見られます。その内容と背景について正しく説明しているものはどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 大消費地に近い立地を活かして、キャベツやレタスなどの近郊農業による野菜の産出額が最も多い。 | 2. シラス台地の特性を活かし、広大な土地で茶の生産や肉用牛の飼育が農業の中心となっている。 | 3. 平坦な土地と豊富な水資源を活かし、稲（米）の産出額が全体の半分以上を占めている。 | 4. 温暖な気候を活かしたさとうきびなどの工芸作物の栽培が盛んで、その産出額の割合が約40パーセントと非常に高い。 |
|--|--|---|---|
- 問9 鹿児島県の自然環境と産業の特色について説明した文として、適切なものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 九州山地から流れる急流を活かした水力発電が盛んで、その安価な電力を利用して沿岸部ではアルミニウム工業が発達している。 | 2. 薩摩半島と大隅半島に挟まれた湾の中に桜島という活発な火山があり、周辺の台地では肉用牛や豚の飼育が盛んに行われている。 | 3. 県内の大部分が盆地で構成されており、火山灰の肥沃な土壌を活かして、ブランド米の生産が県内農業の収益の柱となっている。 | 4. 温暖な気候を活かした促成栽培が中心であり、ピーマンやなすの生産量が日本一である一方、畜産業は小規模に留まっている。 |
|---|---|---|--|
- 問10 日本の海域における海流の性質と流れについて述べた文のうち、九州の西側から日本海へ向かって流れる暖流の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 1. 冷たい海水が千島列島付近から南下している | 2. 暖かい海水が太平洋沿岸に沿って北上している | 3. 冷たい海水がユーラシア大陸沿いに南下している | 4. 暖かい海水が南西から北東の方向へ北上している |
|-------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|
- 問11 福岡県の産業と言えば、かつては北九州工業地帯の重化学工業が中心でしたが、近年では県庁所在地である福岡市などの都市部を中心に、どのような産業の集積が進んでいますか。適切なものを選びなさい。 (2021年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------|------------------|---------------------------|--------------------------|
| 1. 冷涼な気候を活かした食料品製造業 | 2. 情報通信やソフトウェア設計 | 3. ビニールハウスを用いた促成栽培による園芸農業 | 4. 火山灰が堆積した土地を利用した大規模な酪農 |
|---------------------|------------------|---------------------------|--------------------------|
- 問12 九州地方南部の地形図において、標高の高い平坦な場所に「畑」や「茶畑」の地図記号が集中して見られる地域があります。この地域の土地利用の背景として、土壌の性質の観点から説明したものとして適切なものはどれですか。 (2017年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|---|--|--|
| 1. 標高が高く冷涼な気候であるため、寒さに強い果樹の栽培に特化している。 | 2. 土壌に栄養分が極めて豊富であり、一度の作付けで多量の米が収穫できるため。 | 3. 水が地下に浸透しやすく水田としての利用が困難なため、畑作や畜産が行われている。 | 4. 海岸に近く塩害の影響を受けやすいため、塩分に強い農作物のみを栽培している。 |
|---------------------------------------|---|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 夏と冬の気温の差が小さく、年間の降水量は2000mmを超えており、特に梅雨の時期の降水量が多い。	鹿児島市の気候は、日本の南に位置することから温暖で、季節による気温の差が比較的小さいのが特色です。降水面では、梅雨の時期（6月～7月）に湿った空気が流れ込みやすく、月間降水量が400mmを超えるほど激しい雨が降ることがあります。これにより、年間降水量は2000mmを超える水準に達し、日本海側や内陸部の都市よりも多い雨量となります。
問2	答え 4 九州地方	日本の七大方区分（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州）において、宮崎県は九州地方に分類されます。九州地方は九州本島の7県（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）と沖縄県から構成されています。地理的な位置や行政・経済的な結びつきに基づき、このように区分されています。
問3	答え 4 かつての琉球王国の政治拠点であった首里に近く、古くから港町として発展した歴史を持つ。	那覇市は、琉球王国の王府があった首里の外港として古くから海外貿易などで栄えてきました。1879年の沖縄県設置（琉球処分）の際に県庁が置かれ、現在では那覇空港や那覇港を抱える沖縄の玄関口として、また、県内で最も人口の多い中心都市としての役割を担っています。
問4	答え 3 温暖な気候を活かして成長を早め、他の地域の出荷が少ない時期に販売して高い利益を得る。	促成栽培は、宮崎県や高知県などの温暖な地域で盛んな栽培方法です。ビニールハウス等を利用して、本来の収穫時期よりも早い時期（冬から春）に野菜を出荷します。これにより、市場に出回る野菜が少ない時期を狙うことができるため、通常よりも高い価格で販売することが可能になります。対照的に、長野県などの涼しい地域で成長を遅らせる手法は「抑制栽培」と呼ばれます。
問5	答え 4 海面養殖業の収穫量は全国で約13万7千トンにのぼり、約10万トンの海面漁獲量を上回っている。養殖の拠点は、鹿児島県や大分県などの九州地方に集中している。	日本のブリ類生産は、海面漁獲量よりも海面養殖業による収穫量の方が多いという構造になっています。養殖は鹿児島県（1位）、愛媛県（2位）、大分県（3位）、宮崎県（4位）、高知県（5位）と西日本の暖かな海域で盛んですが、特に鹿児島県、大分、宮崎の九州3県によるシェアが非常に高いのが特徴です。一方、海面漁獲量では北海道が1位であり、長崎、島根、岩手、千葉と各地に分散しています。
問6	答え 2 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため	南九州に広がるシラス台地は、過去の火山活動による火砕流堆積物（シラス）で構成されています。この層は非常に厚く、かつ粒子が粗いため水はけが良すぎるという特徴があります。そのため、雨水はすぐに地下へ浸透してしまい、地表付近で水を得ることが困難です。生活用水を確保するためには、この厚いシラス層を貫き、地下水が蓄えられている「帯水層」に到達するまで深く掘り進める必要がありました。
問7	答え 3 那覇空港の拡張や大型リゾートホテルの建設といったインフラ整備が進み、国内外からのアクセスと受け入れ体制が向上したこと。	沖縄県は離島県であるという特性上、観光客を増やすためには航空路線の拡充や空港の整備が不可欠でした。また、1975年の沖縄国際海洋博覧会以降、大規模なリゾート開発が進んだことで、観光収入を拡大させる基盤が整いました。現在では、観光産業は沖縄県の県内総生産（GDP）において極めて重要な役割を果たしており、雇用創出の面でも経済を支える大きな要因となっています。
問8	答え 4 温暖な気候を活かしたさとうきびなどの工芸作物の栽培が盛んで、その産出額の割合が約40パーセントと非常に高い。	沖縄県の農業産出額の構成を他の県と比較すると、野菜や畜産よりも、さとうきびなどの「工芸作物」を含む項目の割合が突出して高いという特徴があります。これは、台風被害を受けにくく高温多湿な環境に適した作物として、さとうきびが古くから地域経済を支えてきた背景があるためです。他の選択肢にある「稲（米）」や「近郊農業」は沖縄県の特徴には当てはまらず、シラス台地は鹿児島県を中心とした南九州の地形的特徴です。
問9	答え 2 薩摩半島と大隅半島に挟まれた湾の中に桜島という活発な火山があり、周辺の台地では肉用牛や豚の飼育が盛んに行われている。	鹿児島県は薩摩半島と大隅半島という二つの大きな半島を持ち、その間にある鹿児島湾（錦江湾）には現在も活発に活動が続ける火山である桜島が位置しています。県内には火山活動に由来するシラス台地が広く分布しており、その土地条件に適応する形で肉用牛や豚の飼育頭数が全国トップクラスになるなど、畜産業が非常に盛んなのが特徴です。促成栽培やピーマンの生産で知られるのは主に宮崎県や高知県などの事例です。
問10	答え 4 暖かい海水が南西から北東の方向へ北上している	対馬海流は、九州の西側から日本海へと流れ込む性質を持っており、その流れは暖かい海水が北上する「暖流」に分類されます。冬の日本海側における豪雪は、この暖流の上を冷たい北西の季節風が吹き抜け、水蒸気を大量に含むことが主な要因の一つとなっています。
問11	答え 2 情報通信やソフトウェア設計	福岡県は九州地方の経済の拠点であり、人口約154万人を擁する県庁所在地の福岡市などを中心に、高度な技術や知識を必要とするソフトウェア設計や情報通信関連の企業が数多く進出しています。これは、都市部に優秀な人材が集まりやすく、オフィスや通信環境が整っているためです。なお、促成栽培は宮崎県、大規模な酪農は北海道などで盛んな産業です。
問12	答え 3 水が地下に浸透しやすく水田としての利用が困難なため、畑作や畜産が行われている。	シラス台地は火砕流堆積物からなる地層であり、非常に多くの隙間があるため、降った雨がすぐに地下へ抜けてしまいます。川やため池から水を引き込むことも困難だったため、稲作ではなく、乾燥に強い作物を選ぶ必要がありました。こうした背景から、畑作や広大な土地を活かした畜産業がこの地域の主要な産業となっています。